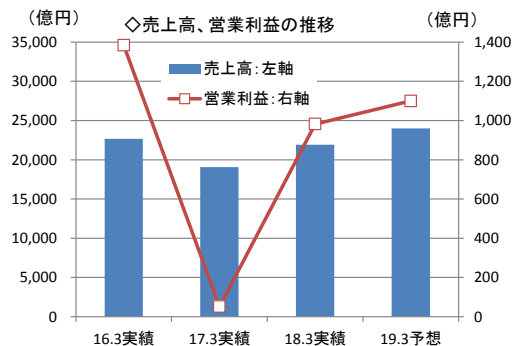


# 企業ニュース 三菱自動車

(東証1部：7211) <https://www.mitsubishi-motors.com/jp/> 作成者：奥村義弘

## 日産自、ルノーとアライアンスを組む

1970年設立。2016年10月に日産自が筆頭株主（当社株式を34%保有）となり、日産自とフランスのルノーと共に、ルノー・日産・三菱アライアンスを構成している。18.3期～20.3期までの中計では年間販売台数と年間売上高を17.3期比30%以上増の130万台、2.5兆円とすることを目指す。設備投資は同年間60%増の1,370億円、研究開発費は同50%増の1,330億円とし、3年間で6,000億円以上の投資とする。期間中毎年フリーキャッシュフローの黒字を確保する。SUV・4WDやピックアップトラックなど当社が得意とするラインアップを強化、新型「エクспанダー」、新型「エクリプス



(出所)三菱自動車資料よりCAM作成

クロス」など11モデルを投入する。

## アセアンを中心に良好な販売が継続

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が1兆1,693億円、前年同期比23%増、営業利益が569億円、同29%増。グローバル販売台数は59.4万台、同19%増。主力地域とするアセアンと豪州・ニュージーランドが同26%増。日本も同12%増と回復感が出ている。西日本豪雨の影響で当社の生産にも1万台以上の影響が出たが、これを吸収した。新車販売ではクロスオーバーMPV・エクспанダーの拡販効果が大きかった。市況変動によるコスト増や成長投資による費用増、広告宣伝費は膨らんだが、アライアンスのシナジー効果を含めた資材費低減が順調に進んだ。一方、為替は資源国や新興国の通貨安が減益要因となった。

19.3期の通期会社計画は、売上高が2兆4,000億円、前期比9%増、営業利益が1,100億円、同12%増。グローバル経済の不透明感の強まりや、新興国通貨安の影響から計画を据え置いた。4月よりアセアン各国へ輸出を開始したエクспанダーは19.3期の生産台数を10万台から12万台へ引き上げた。21.3期には年間16万台へ引き上げる。販売は好調が続こう。11月にタイでピックアップトラック・新型トライトンを発表、国内ではモデルチェンジしたデリカD：5が好評である。

## [株価動向・投資判断]

アジアのSUV市場やPHEV（プラグインハイブリッド車）に強みを持ち、良好な販売動向が続き好感できよう。足元はゴーン後のアライアンス新体制の行方が注目されよう。

<7211 三菱自 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,906,632 (▲ 16)	5,118 (▲ 96)	8,944 (▲ 94)	▲ 198,524 ( - )	▲ 164.1	10.00
18.3	2,192,389 ( 15)	98,201 (1,819)	110,127 (1,131)	107,619 ( - )	72.2	17.00
19.3 予	2,400,000 ( 9)	110,000 ( 12)	125,000 ( 14)	110,000 ( 2)	73.9	20.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/12/14)	672 円
年初来高値(高値日)	934 円(18/7/24)
同 安値(安値日)	648 円(18/12/11)
予想PER(19.3予)	9.1 倍
1株株主資本(PBR算出用)	547.2 円
PBR	1.23 倍
予想配当利回り	2.98 %
(1株当たり配当金20.00円)	
ROE(18.3)	14.6 %
発行済み株式数	149,028 万株